

福井医療大で、1年生対象の新聞読み方講座が開かれた。学生約120人が受講、効率的に情報を収集することを学び、新聞が雑談力を磨くツールであることを確認した。

森透教授が指導する一般教育科目「教育学」の授業で実施。福井新聞社の記者を講師に招いた。

講座では、ネット上のフェイクニュースやデマ拡散の問題に

触れ、新聞をベースに真偽を見極める確かな目を養ってほしいと強調。「医療ニュースや地域の話題など多彩な情報が載っている新聞に目を通し、会話を付けてほしい」と話した。

記事の重要な要素は見出しやリード文(前文)に示されていることから「まずは見出しに注目し、気になった記事をじっくり読んでみて」と呼び掛けた。

学生は看護師のほか、理学療

記事から雑談力磨いて



当日の朝刊に目を通す学生たち＝福井市江上町の福井医療大

福井医療大生 読み方学ぶ

法士や作業療法士を目指している。受講後、学生から「医療の専門知識を身に付けるだけでなく、日(り)から新聞に目を通し、患者とコミュニケーションが取れるようになりたい」「(当日の社会面に掲載された)5歳の女の子が虐待されなくなった記事を読んでいて涙が出てきた。ネットなら、さらっと流していたと思う」といった感想が聞かれた。

(宇野和宏)

